

第35号 35円

昭和49年7月25日

内容

- 佐藤喜一郎氏追悼特集……………5~8
- 70年代と日本国憲法……………1
- 新館長に飯田専務理事……………2
- 評議員会総括報告……………3
- 千人会・年輪の会……………4
- 第67・68回大学共同セミナー……………9
- 業務通信……………10
- 宿泊者数30万人に達す……………11
- 第1回日豪関係セミナー……………11
- 利用状況・館長日記から……………12

セミナー・ハウス

SEMINAR HOUSE NEWS

発行

財団法人 大学セミナー・ハウス

〈所在地〉

東京都八王子市下柚木

(〒192-03)

電話 0426-76-8511~3

振替口座 東京74590番

〈東京事務所〉

東京都中央区日本橋本町3-3

三井銀行本町支店ビル5階

電話 東京 (241) 3961

編集・発行人 飯田宗一郎

製作 中央公論事業出版

最近の話題だけでも、公務員のストライキ権、信教の自由からんだ靖国神社法案、あるいは参議員選挙における地方区の議員定数などが著しく不平等であるという問題など、私達のまわりには多くの憲法問題があらわれてきている。そこで現代の日本における日本国憲法の問題を多角的にとりあげてみよう。

日本国憲法が制定、施行されてから四半世紀以上の間に、この憲法の基本原理と考えられている国民主権、基本的人権の保障、平和主義、明治憲法とは大きな変革であるにもかかわらず、国民のうちにしみとおってきたということができよう。しかし他面で行くつかの問題も生じてきている。

七〇年代の日本における日本国憲法の問題というのは、憲法と政治の関係、および憲法の日常化という二つの種類に大きくわけられると思う。

I 憲法と政治——憲法は国家の政治の基本法であるから、憲法と政治が深く関わりあうということはいまでもない。政治が憲法にしたがって行われることが「法の支配」といわれる観念の核心であろう。ただ日本では議会民主制がゆがみをみせているので憲法と現実の政治がしばしば離れがちであることは、大きな問題となる。

憲法と政治の問題は二つの面で違った形であらわれてきている。一つは本来の政治のプロセスにお

いて憲法がどのように生かされているか、あと一つは、裁判の過程において政治に関連して憲法がどのように問題にされるかである。第一の政治過程における憲法の問題であるが、憲法に定められている国民主権はたてまえであって、多くの国では代表民主制、議会民主制という形をとっている。日本ではその議会民主制が必ずしもうまく機能しないところに問題がある。適正に機能するためには、まず代表者が国民の意志を正しく代表していること、第二に議会において理性的な討論が行われている



七〇年代と日本国憲法

東京大学教授 伊藤 正 己

議会でも争われないで裁判所で争われている。このような点に関して私の指摘したいことは、第一に政治が憲法に則って行われることは政治の最低条件であり、憲法に合致した上で政策として妥当であるかということが政治の場である国会で議論されるべきであるのに、日本ではしばしば憲法論の平面で争われることが多いという点とである。だから最高裁判所が合憲だというとその問題は解決されたように考えられ、一般の人達も合憲な政策というのは妥当な政策だと考えがちである。国民の日常

生活に関連する生活保障の問題においてそのような誤解があるように思う。第二に裁判が政治に深く関わりをもつことになると政府は裁判所の動向に無関心ではありえず、野党にしてもそうである。そこから司法権の独立とか、裁判官の独立の問題がきわめて政治的な争点になってくる。これはある意味では当然ともいえるが、司法のあり方にとっては不幸なことではないだろうか。

II 憲法の日常化——明治憲法

の中ではほとんど考えられなかったことであるが、家庭、生活保障、

教育、労働などの日常生活のなかで盛んに憲法論がでてくるし、裁判においても日常生活に結びついた憲法が問題とされている。また知る権利、環境権、プライバシーの権利のような新しい権利が憲法を根拠にして生まれている。このように憲法が日常生活化してくるというんな問題が憲法上生まれてくることを指摘したい。

まず第一に、かつて憲法が保障している人権というのは、国家権力や公権力が侵害することを防ぐものであった。その本質は現在も変っていないが、社会が非常に複雑になってくると、公権力による人権の制限と人権の対立という問題ではなく、むしろ人権と人権とが対立するということがふえてきた。そこでその対立をむしろ公権力が調整しなければならなくなった。例えば表現の自由とプライバシーのぶつかりあいの調整がそれであり、憲法による人権の保障という問題はむづかしいものとなっている。

もう一つは公けの権力といえないもの、会社、労働組合など法律的には私的な存在が人権を侵害するという事例が非常に多くなっている。またこれからは憲法と国際社会の問題も大きな憲法問題になると思われる。これからの憲法論は、このような新しい課題に対応していかなければならないだろう。

(第67回大学共同セミナー全体講義の概要。文責編集者)

◆千人会 千人の同心を求めて・善意の年輪をつくるために

◆現在会員は八六三名です！

大学生 六七四名
社会人 一八九名

〔6月末現在〕

◆千人会のご入会を感謝します

【第24回報告(申込順)】

B 東京理科大学教授

大沢綱一郎殿

C 兵庫県明石北高校教諭

福山 直美殿

B セミナー・ハウス職員

田口 忠治殿

C 明治大学助手 中村 幸安殿

C 日本女子大学教授 佐藤 進殿

C 日本女子大学助手 大友 昌子殿

C 日本女子大学助手 宇都 栄子殿

C 日本女子大学助手 岩本 ミチ殿

A 大学婦人協会理事 南 美枝子殿

A 日本女子大学校楓会理事 西村 章子殿

B 日本女子大学教授 辻 キヨ殿

C 東京大学教授 菅野 暁殿

◆会費ありがとうございます

〔昭和49年4~5月〕(敬称略)

南美枝子、西村章子、都留春夫、

山田良之助、野見山不二、浮田久

子、田口忠治、村田和己、中村幸

安、植村甲午郎、村上正夫、桐生

富久、犬塚 博、染谷恭次郎、加

藤 寛、石井千尋、藤本 紘、東

洋、江洲浩美、塩田庄兵衛、岡田

純一、井上百合子、高峯一愚、古

川晴風、原 治、細谷千博、松原

秀一、吉谷龍一、鈴木 昭、佐藤

毅、村田喜代治、笠 耐、村瀬興

雄、彦由一太、神保信一、谷口汎

邦、佐藤和男、寿里 茂、有賀弘、

鈴木 博、池上秋彦、横山定雄、

小泉一郎、福西 基、豊島広司、

年輪の会 生まれる

◆学生の入会を望む

「年輪の会」はセミナー・ハウス
を利用された方々との間に連帯を
つくる目的で、この4月に設けら
れた。「千人会」はいわば維持後
援会ですが、「年輪の会」は、い
わばセミナー・ハウスの会とい
うべき性質のもので、ニュースを
始め、時々の印刷物をお送りして
セミナー・ハウスの近況をお知ら
せすれば、よろこんで読んで下さ
るような若い年齢層の方々を会員
としたい。共同セミナーのチラシ
などもその都度お送りし、出席し
てもらおうよう連絡もとりたい。

矢野洋四郎、椿 弘次、太田正孝、
小泉文夫、竹内昭夫、一柳富夫、
原口隆英、村山松雄、山田一郎、
木田 宏、大槻盛一、谷口 茂、
田中昭二、小林提樹、小川 仁、
羽田三郎、伊倉退蔵、和田昌衛、
早川和男、柏原啓一、櫻山欽四郎、
木村尚三郎、滋賀秀三、井早康正、
岩崎英二郎、沢本孝久、岡本栄一、
鳥居照男、山下 肇、川口 弘、
橋本次郎、吉利喜美、小原清成、
土橋 清

▽年会費五百円
▽ニュース購読料を含めて

年毎に利用者が増加するし、少な
くとも一年に三万人から四万人が
利用するから、年輪は太くなるば
かりである。

一度でもこの多摩の丘で勉強さ
れた方は、セミナー・ハウスの同
窓生になったので、「年輪の会」
に入会する資格を得たも同様であ
る。

利用者は「あなたも、わたしも」
欲びの歴史をつくってくれたセミ
ナー・ハウスの友である。「年輪
の会」の会員が将来千人会の会員
にまで育ってくれば、セミナー
・ハウスは大樹となって多摩の丘
に根をはるにちがいない。

昭和48年度千人会費収支決算書

【収支計算書】

入		出	
科 目	金 額(円)	科 目	金 額(円)
会 員 収 入	3,063,578	諸 手 数 料	28,770
雑 収 入	344,777	印 刷 費	195,186
		経 常 部 繰 出	700,000
		本 年 度 剩 余 金	2,484,399
合 計	3,408,355	合 計	3,408,355

【貸借対照表】

借 方		貸 方	
科 目	金 額(円)	科 目	金 額(円)
流 動 資 産		流 動 負 債	
預 貯 金	8,629,551	前 期 繰 越 金	6,145,152
		剩 余 金	2,484,399
		当 期 剩 余 金	
合 計	8,629,551	合 計	8,629,551

開館9周年記念

ピアノ購入のため三〇万円を募金
金額の大小にかかわらずご協力をお願いします
昭和49年4月から11月まで

- 現在講堂にあるピアノは開館五
周年記念に際して募金をし、お祝
いとして寄付していただきました
。その一台のピアノを式典やパ
ーティのある度に講堂と食堂の間
を運びます。楽器を移動するのは
よくないし、また手数です。この
際必要な物品であることを皆様
が確認されましたので、食堂用ピ
アノを購入することにします。ご支
援を仰ぎます。
- 【寄付者芳名】(6月15日現在)
- 三〇〇〇円 日本航空電子工業殿
 - 三〇〇〇円 日本大学建築学科
 - 二〇〇〇円 田治見氏他49名殿
 - 二〇〇〇円 明治学院大学
 - 二〇〇〇円 大島貞夫ゼミ殿
 - 二〇〇〇円 才能教育研究会 西八
 - 二〇〇〇円 王子教室 戸川久詩殿
 - 一〇,〇〇〇円 東京大学教授
 - 一〇,〇〇〇円 伊藤正己殿
 - 一〇,〇〇〇円 飯田恵、千恵子殿
 - 一〇,〇〇〇円 都立商科短大教授
 - 一〇,〇〇〇円 鳥袋嘉昌殿
 - 六,七〇〇円 第67回大学共同
 - 六,七〇〇円 セミナー殿
 - 二,〇〇〇円 青山学院大学原ゼミ殿
 - 三,〇〇〇円 国士館大学 亀山潔殿
 - 五,〇〇〇円 婦人国際平和自由連盟
 - 五,〇〇〇円 日本支部殿

哀惜

佐藤喜一郎氏との

縁を記憶するために



●追悼特集

編集 財団法人 大学セミナー・ハウス企画室
昭和49年7月25日発行

●佐藤喜一郎氏の追憶

大浜 信泉

大学セミナー・ハウスは大学教育の歴史の上に燦然と光彩を放っているが、この歴史的偉業も佐藤氏の助力がなかったとすれば、おそらくは夢物語に終ってしまったのではないだろうか。ことほどさようにセミナー・ハウスは佐藤氏に負うところが大きいのである。この視点から同氏の永眠を悼むとともに、その功績を覚えたい。

何事によらず、まったく先例のない新規の事業というものは、どうやら目鼻がつきよい軌道に乗るようになる、当然に生まれ出るべくして生まれてきたと、いかにもあたりまえのことのように考えられがちであるが、しかし実際ににおいては生みの苦しみというか、海のものとも山のものともつかない暗中模索の時代が先行するものである。セミナー・ハウスもその例外ではない。

は、今さら説明を待つまでもないが、筆者がはじめてこの構想について相談を受けたのは、昭和34年3月頃のことであったように記憶する。はじめてこの話を聞いたとき、正直のところアイデアには大いに心を打たれ共鳴を感じたが、しかしいざ実現となると厚い壁にぶつかって、結局は神話に終ってしまうだろうというのが、偽らざる感想であった。

まず第一に、国、公、私立の大学が協力して共通の教育施設を建設し、共同の責任においてこれを運営するなどということは、当時としてはあまりにも突飛なことのように考えたからである。またたとえペーパー・プランは出来たとしても、その実現には巨額の資金を要するが、大学の寄り合い世帯でどのようにしてこの所要資金を確保するかとなると、さらに見透しは暗かった。

もっとも全然あきらめきつていたわけではない。一面、飯田氏の熱意にほだされ、他面、夢が捨て切れず、時折り茅誠司氏と会合してその打開策について話し合っていたが、この計画を現実的に躍進させる契機となったのは、今にして思えば昭和36年7月21日、佐藤氏との会合がそれであった。茅、飯田の両氏に筆者を加え三人で三井銀行に佐藤氏を訪ねて、セミナー・ハウスの構想を説明して資金造成に関する協力を懇請したところ、この計画に大いに共鳴され、二、三億円程度の募金なら、自分が業財界に対する呼び掛けの音頭取り役を引き受けてもよいと即座に快諾された上に、寄付金がまと

まるには多少、日時を要するので、土地の買取資金やその他緊急の所要資金は三井銀行で融資してもよいとまで力強い助言があった。こうして37年9月19日、東京大学の懐徳館に関係者が会合して建設後援会を結成し、それが主体となって建設の具体案を作成するとともに募金運動を展開することになり、セミナー・ハウスの建設計画はいよいよ本格的に発足したのであった。

ところで建設設計には敷地の確保が前提になるので、用地の取得にとりかかり、候補地として三カ所が浮び上がってきたが、あらゆる角度から検討した結果、現在の敷地を最適地として選ぶことにした。この土地は京王電鉄の所有地になっていたので、さっそく同社の社長を訪ねて交渉したところ、この計画に協力する趣旨で、買取価格に金利を上積みしただけで一文も儲けることなしに売却を承諾された。六千万円前後であったように記憶するが、その半額は三井銀行の融資によって支払った。

「真理の鐘」に刻む

真理

喜一郎書

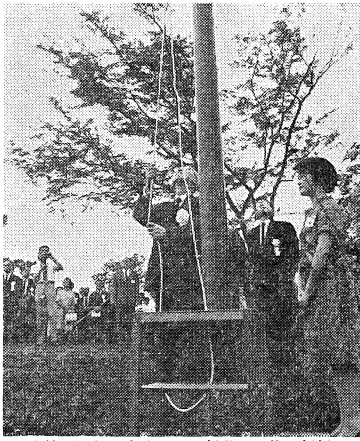
(元早稲田大学総長、大学セミナー・ハウス元理事長、終身理事)

●問題解決の扉を開く
茅 誠 司

私が東京大学に勤務していたころ、初めて飯田さんの来訪をうけ、この大学セミナー・ハウスの構想を伺いました。そしてその構想のすばらしいことを強く認識はしましたが、それに必要な資金集めが困難なことを知っている私には、アイデアの実現性について、正直なところほとんども期待することはできませんでした。

しかし人間の一念ほど恐ろしいものはありません。他人に何んと言われようとも、真一文字にその目標に向かって障壁を一つ一つこなしながら進撃を続けるというのが飯田さんの態度であつて、これは今も変わっていません。そしてその熱意が財界の元老三井銀行会長佐藤喜一郎氏を動かして問題解決の扉がいに開かれたわけです。

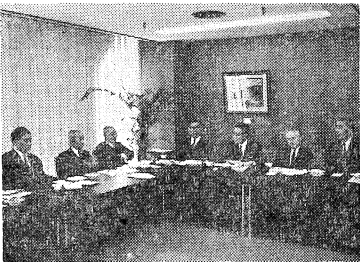
「読売新聞」昭和45年10月21日付(元東京大学総長、大学セミナー・ハウス元館長、終身理事)



開館2周年記念式の日新設の国旗を掲揚



建設工事の進行状況を視察



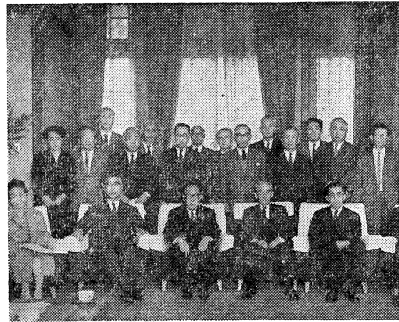
第2期拡充計画募金常任委員会(経団連会館)



地鎮祭(建設地にて)



建設後援会発会祝賀パーティ(東大徳徳館)



評議員会(昭39.11.7.銀行クラブ)



教師館落成式(佐藤,大浜,増田,植村,茅野の諸氏)

●佐藤喜一郎氏略年譜

- 明治27・1・22 横浜市に生まる。
- 大正6・7 東京帝国大学法学部卒、三井銀行入社。
- 昭和5・9 ボンベイ支店長。その後、ニューヨーク、上海、神戸、大阪の各支店長を歴任。
- 三井銀行取締役となり大阪支店長を兼任。
- 帝国銀行(三井銀行と第一銀行の合併)の常務取締役に就任。
- 同行取締役頭取に就任。
- 経団連副会長に就任。
- 三井銀行(昭29帝国銀行から旧名に復帰)取締役会長に就任。
- 臨時行政調査会長に就任。
- 勲一等瑞宝章受章。
- 三井銀行相談役。経団連評議員会議長に就任。
- 産業計画懇談会代表世話人として産業構造の改革で提言をまとめる。
- 勲一等旭日大綬章受章。
- 昭和36・7・21 大学セミナー・ハウスの関係
- 49・4 茅誠司、大浜信泉両総長およびセミナー・ハウス構想の提唱者飯田宗一郎氏の訪問を受け、大学セミナー・ハウス建設後援会長の就任を懇請される。
- 8・18 財界有志を銀行クラブに招き、大学セミナー・ハウス建設計画を説明する。
- 11・1 財団法人設立準備事務所として、三井銀行本町支店ビルの一室を提供する(法人設立後は東京事務所として現在に至る)。
- 37・9・19 大学セミナー・ハウス建設後援会発足。創立総会、発会祝賀パーティ舉行。
- 38・11・2 建設地地鎮祭にて玉串を奉奠。
- 40・4・17 建設工事中間披露に際し現地を視察する。
- 42・11・1 新築落成式。建設後援会を代表して挨拶。
- 11・1 創立関係者として財団法人大学セミナー・ハウス評議員の推薦をうける。

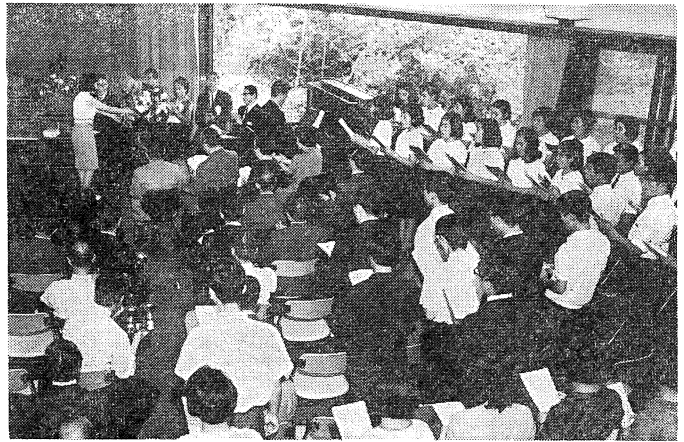
●開館5周年祝典に寄せることば

佐藤喜一郎

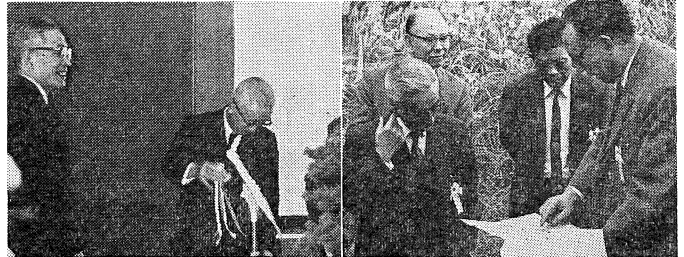
元来このセミナー・ハウスの施設が、始めから国公立大学の共同使用に供するという点に私は大いに共鳴した次第なのであるが、この建設計画を大学の先生方と私のような財界側の幾人かが集って東大の懐徳館で相談したのは、昭和37年9月9日であったから、数えると実は十年近くになっている。関係者はこの間皆奉仕の精神と善意の塊のような人達の集りで、それだけに多少強引であったとも思う。しかし目的達成には強引も時にも必要である。

このセミナー・ハウスが開業してから間もなく学園紛争が始まった。知らぬ人は、これが何か紛争対策でもあるかのように思ったかも知れないが、それは勘違いである。少なくとも私の意識は勉強したい学生たちと、これに応じて指導したい意欲のある先生方に場所を提供してあげようと考えたのにつきる。5周年を迎え「ああ、よかった」という気持で一杯である。

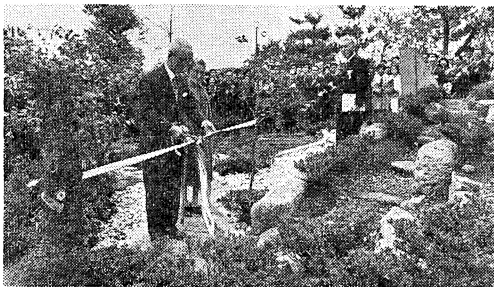
(セミナー・ハウス22号より)



開館2周年記念式で学生代表から感謝の花束を贈られる



「真理の鐘」ミニアテュアを増田理事長より 建築プランの説明をさく、後方は手塚富雄氏



開館7周年記念式で佐藤氏のテープに鉄を入れる (隣は上代たの氏)



落成式記念樹 (山椿) の前で



落成祝賀パーティ (佐藤, 南原, 大浜, 茅, 飯田の諸氏)

ひとえに「この人」ありて
— 心に残る知性と人間性 —
館長 飯田宗一郎
昭和36年(一九六一)7月21日は三井銀行会長室で佐藤喜一郎氏に初めてお目にかかった記憶すべき日である。この日がセミナー・ハウス構想が目の目を見るかどうかを決める勝負の日であった。私はおそるおそる同氏の反応を見ていた。やがて共感を得たのである。私はこれで七分通り計画の実現性を信じて安堵した。
私はご自宅のお通夜で、あの葬儀場で悲しみの感情に耐えなが

昭和42・7・10
開館二周年記念式、講堂・図書館落成式。——
図書館は三井銀行の寄付による。学生代表から謝辞と花束を贈られる。茅誠司館長とともに記念講演を行なう。なお「自由化問題雑感」と題したこの講演は中央公論に掲載される。
安西啓明画伯の大幅の日本画「昭和南山」を寄贈
松下館II教師館落成式。松下幸之助氏の寄付を受けた教師館(松下館)の落成式に列席。ペルタワの献鐘式において「真理の鐘」をつく。
開館五周年記念式。——当日、渡欧中のためセミナー・ハウス・ニュース第22号にお祝いの言葉を寄稿(別掲)して所懐を述べる。
評議員会において唯一人の大学の功労者として終身理事に推挙される。茅、大浜、上代、飯田の各氏に加えて終身理事五名となる。
開館七周年記念式。——佐藤氏の功労に感謝するため中央の丘が佐藤氏と名づけられる。参加者の盛大な感謝の拍手の中で佐藤氏のテープに鉄を入れる(多摩の丘を訪れたのは、この日が最後になった)。
ら、感謝の情をこめて「お世話になりましたね」と永遠の訣別の挨拶を申し上げた。
財界の巨人は、ここ十余年の交りの中で、立派な大学人の仲間になられた。茅先生が「佐藤さんが一番喜ばれるのは、あなたの用辞だと思っから……」と仰せられたが、それほどに「この人」との出会いは私の運命を方向づけたのである。遠い存在であった人が、あの日を起点として極めて近い処にいて下されたのである。「大木は倒れてからが、よく測れる」というから、これから私もそのような経験を度々することであろう。

増田 四郎

佐藤さんがおられなかったならば、大学セミナー・ハウスの今日はおそらくありえなかったであろうというのが、私がセミナー・ハウスに関係して以来、ずっともちつけてきたいつわらぬ感想である。それは単に寄付金のことについてしばしば御相談にあがった際の印象であるばかりでなく、日頃からおられた深い御配慮からの判断である。その意味で佐藤さんはことばの最も厳格な意味においての恩人であった。古来すぐれた恩人がそうであったように、佐藤さんは決して自分のことを表面には出されなかった。ただ日本の将来をになう若い青年への、ひたすら純粋な期待のゆえに、ひそかにこうした施設の発展を念じ、内心から後援をおしまれなかったものと考ええる。

らば、佐藤さんこそ真の賢者であったと私は思う。

物静かではあるが、するどい判断を示唆される佐藤さんの前へ出ると、あの小柄な佐藤さんがいかに大きく思えたことか。私たちは単にセミナー・ハウスの大恩人というしなっただけをなげくだけでなく、日本の将来を憂える偉大な賢者をうしなっただけを悲しまなければならぬ。ペルタワールの鐘にきざまれた「真理」という字に、私は佐藤さんのかけがえのない尊い精神をひしひしと感得する一人である。心から御冥福を祈りたい。

(元一橋大学長)

井 深 大

いつ頃だったかはつきりしないが、突然佐藤さんから「テレビを一台寄贈してくれないか」という電話がかかってきた。これが私が大学セミナー・ハウスを知った最初である。

「今の大学の悪は、総て教師と学生のひざを交えての対話のなさから起るのだ」と、セミナー・ハウスの存在の重要性を、しばしば熱をこめて語られた佐藤さんの姿を今もはっきり思い起こされる。

経済は勿論のこと、政治、教育、文化の広い分野で、堅い信念と高い見識をもち、必要だと思われればどんな困難なことでも思いきって主張され、また自ら先に立つてその実現に努力された。

このような気骨ある人を失った

ことは日本にとってこの上もない損失である。(ソニー会長)

永 井 道 雄

佐藤喜一郎氏が亡くなりました。心から追悼の意を表したい。佐藤喜一郎氏とは会合でしばしばお目にかかる機会があったが、個人的にはお話ししたことはなかった。大学セミナー・ハウスの設立

ご霊前に
感謝を捧ぐ

壮麗な人格
大いなる貢献



と発展のため大きな力を貸していただいたことについては、セミナー・ハウスを愛する者の一人として心から感謝に堪えない。最近、日本の実業界が企業防衛の姿勢をとり、政界への多額の献金を行なったり、何かにつけて政界との癒着が目立つのは残念なことであるが、明治初期の日本の実業人の中には独立の人柄が少なくなかつ

た。そうした人々は政治家と一体になって、短期間の利益を守るよりも、自分の力で企業をおこすこと、文化の発展に力を貸すことを心がけていた。戦前の藤原銀次郎、村田省蔵、畠山一清、小倉正恒の諸氏などはすべてそうした考えの持ち主であったが、戦後そうした実業人が少なくなったなかで、佐藤喜一郎氏は特色ある方一人であり優れた精神を継ぐために努力された。今後、日本の経済も次第に変化するであろうが、独立の精神と文化に貢献する努力はいつの時代にも非常に重要である。大学セミナー・ハウスも佐藤氏がおられたために発展を遂げることができたのであるが、それだけにセミナー・ハウスは優れた人材を生むことによって佐藤氏の霊を慰めなければならぬと思う。

村 山 松 雄

およそわが国であげられているのが人間で、不足なのは資源といわれているが、私は日本に真に欠けているものは人物ではないかと思う。次の時代を見通し、それに対する策を立てこれを実行する識見と能力の持主、真に大人物と思われるような人が少なくなっているのではないかと感じられる。そのような中で、私は佐藤喜一郎さんこそは実業界にあって、故松永安

左衛門氏、現存の方では石田礼助氏などとともに大人物というにふさわしい方であったと思う。佐藤さんのような大人物なればこそ大学セミナー・ハウス設立の目的を理解され、力強い支持がつけられたのである。

今のような時に佐藤さんがなくなればそれは真に残念なことでもあり、御冥福をお祈りすることも後に続く大人物の出現を切に期待するものである。(文部事務次官)

加 藤 一 郎

佐藤さんは、セミナー・ハウスの計画に当初から大きな関心と理解を示された。そしてセミナー・ハウスのためにこれだけの資金が集まり、その建設、発展が可能になったのは佐藤さんに負うところが大きい。セミナー・ハウスの行事や会合には努めて出席して下さった。忙しい財界人でありながらあの丘まで足を運ばれることは、よほどの愛情がなければできないことである。佐藤さんのお話はそのお人柄を反映して率直で飾り気のないものであった。しかしなかなかしんが強く、理想主義的なところも持ち合わせておられた。一言で言えば、知性のある近代的財界人ということになるであろう。小さな身体の中に静かな情熱をたたえておられたお姿に接することができなくなったのは淋しいことである。セミナー・ハウスは偉大な理解者を失った。(前東大総長)

第67回大学共同セミナー

憲法記念日に因んで

◇主題 現代の日本と憲法

◇期日 昭和49年5月2～3日

◇全体講義◇

七〇年代と日本国憲法

東京大学教授 伊藤正己氏

◇セクシオン演習◇

A 裁判と政治

東京大学教授 伊藤正己氏

B 現代社会と憲法

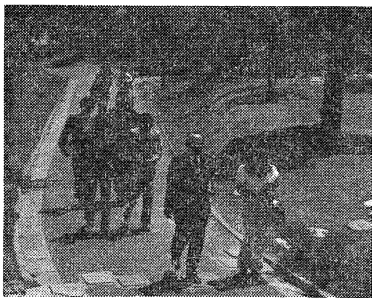
大阪市立大学助教授 田島 裕氏

◇運営委員◇

東京都立大学助教授 淵 倫彦氏

参加学生 38名(内女子19名)

早大(5)、中大(4)、ICU(4)、東大、学芸大、学習院大、成蹊大、青学大、東女大、津田塾大(各2)、一橋大、日大、明大、国際商科大、東北薬科大、上智大、立大、聖心女大、日女大(各1)



伊藤正己教授と学生たち

計21大学

今回は伊藤正己教授らのご協力
で、憲法記念日に開かれた。
伊藤教授は、マスコミでも問題
になっている憲法と政治の乖離、
日常生活と憲法の関係について判
例を引用されながら言及され、ま
た激動が予想される今後の社会と
憲法について話された。

セミナーは、ゴールデン・ウィ
ークの最中でもあり、欠席者が続
出するのではないかとという予想を
裏切って、ただの一名の欠席者も
なく、参加学生の「憲法を論ずる
にはあまりに日程が短かすぎる」
という感想が残された。初めての
試みであったが、憲法記念日にふ
さわしいタイムリーなセミナーと
して成果をあげたようである。

▼第67回共同セミナーに参加して

藤本和子

大学共同セミナーの存在を初
めて知ったのは新聞紙上でだった。
法学部であること、暇であるから
という軽い気持で応募したのだ
が、参加後の感想はまったく違っ
たものになった。
討論における意見の多様性は驚

くべきものがあつた。法学部以外
の他学部ならではのユニークな意
見発表が行われ、法律の知識のあ
る人の意見よりも、何も知らない
人の素朴な質問の方が考えさせら
れたといえる。普段は接触する機
会のない大学から、学部から、一
つの目的のために集うことは新鮮
な衝撃であるとともに喜びでもあ
つた。また多くの人を前にして自
分の意見を正確に述べることの難
しさ、他の人の意見を引き出すこ

第68回大学共同セミナー

八大学合同企画による

◇主題 戦後の日本外交

◇期日 昭和49年5月31日～6月2日

との難しさを同時に認識したのも
このセミナーにおいてである。
セミナーに参加した最大の収穫
は友人を得たことである。セミナ
ー・ハウスで会うことがなけれ
ば、マンモス校である早稲田のキ
ャンパスでは彼らと知り合うこと
もなかったであろう。

一泊二日では十分できなかった
討論の続きが早稲田の一角でいま
も続けられている。
(早稲田大学法学部一年)

◇セクシオン演習◇

A 日米関係

一橋大学教授 細谷千博氏

上智大学教授 三輪公忠氏

B 対アジア外交

成蹊大学教授 宇野重昭氏

C 対欧外交

国際基督教大学博士課程 南 義清氏

D 対ソ・東欧外交

津田塾大学教授 百瀬 宏氏

E 資源・経済外交

一橋大学助手 野林 健氏

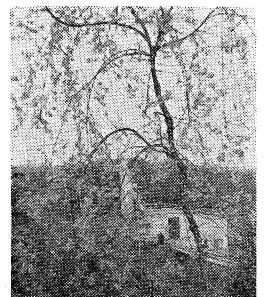
F イメージ形成と政策決定

明治大学助教授 渡辺昭夫氏

国際基督教大学・聖心女子大学
講師 緒方貞子氏

◆ ゲスト ◆

今後の日本外交の展望



しだれ桜 (日本花の会寄贈)

この合同ゼミは、成蹊の宇野、
一橋の細谷、上智の三輪の三先生
などセミナー・ハウスに関係の深
い国際関係教授の発意によって、
大学間交流による学生の研究の深
化を目的に考えられた。今回が二
回目である。

今回のセミナーは、新たに明治
大学の渡辺昭夫ゼミが参加して、
戦後の日本外交の展開について、
アジア、西欧などのブロック別に
検討しようとしたものである。
セミナーの運営は、各ゼミの学
生から選ばれた実行委員によって
進められ、事前に各セクション毎
の年度の学習会や、実行委員会が
もたれた。

外務省事務官 松井靖夫氏
◇ セクシオン・アシスタント ◇
国際基督教大学社会科学研究所
助手 森山昭郎氏
上智大学博士課程 五味俊樹氏
一橋大学博士課程 黒川修司氏
参加学生 69名(内女子24名)
慶大(21)、成蹊大(16)、津田塾
大(9)、聖心女子大(7)、明大
(6)、一橋大(6)、上智大(3)、
ICU(1) 計8大学
◇ ◇ ◇

大学共同セミナー開催予告

- 第71回 人類の未来と国連…………… 9月27～29日
- 第72回 言語と文化(仮題)…………… 10月11～13日
- 第73回 東洋と日本…………… 11月8～10日

(開館九周年記念セミナー)

業務通信

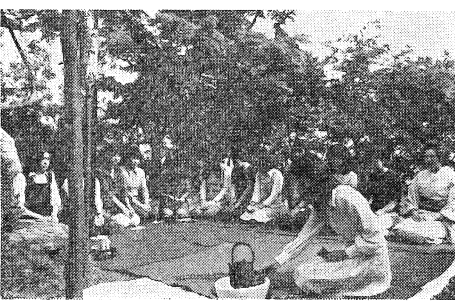
48年度の宿泊延人数は四一七

三六人で前年度に比べ七〇七人の増加であった。また一日平均一九人の在泊者があったことにな

る。東京都立大学は利用回数、宿泊延人数とも一位であり、利用回数のトップは二年連続である。次に一年間よく利用して下さった先生方を御紹介しよう。(敬称略)

11回 神保信一(明学大)
4回 三戸 公(立大)、鶴田忠彦(都立大)、川原栄峰(早大)、宮崎犀一(中大)

3回 徳末安伊子(日女大)、松田武彦(東工大)、市川 博(横国大)、深海博明(早大)、木村彰一



野点もまた楽し

(東大)、広野良吉(成蹊大)、田村恭(早大)、高野史郎(明学大)、関沢勝一(日大)、吉原 功(明学大)、色川大吉(東経大)、増田茂樹(明学大)、桑原哲郎(武工大)

【昭和48年度利用者調査表】

【表1】利用者別宿泊人員・セミナー回数

区分	セミナー回数(回)	率(%)	宿泊延人数(名)	率(%)	平均	
					1均	体人数(名)
会 員 校	560	62	15,913	38	19	
非 会 員 校	103	11	5,451	13	39	
学 生 連 合	33	4	3,125	7.5	164	
学 会、教 育 団 体	86	9	8,671	21	39	
社 会 人 団 体	127	14	8,294	20	31	
個 人	—	—	282	0.5	平均	58
計	909		41,736			

【表3】月別利用状況

月	セミナー回数(回)	宿泊延人数(名)	定員比(%)
4	62	3,556	49
5	65	4,419	57
6	57	3,212	51
7	72	3,328	43
8	74	4,454	57
9	90	3,582	50
10	85	4,408	57
11	88	3,588	50
12	79	2,239	33
1	55	1,846	28
2	88	3,895	56
3	94	3,213	41
計	909	41,736	48

【表2】会員校利用状況

順位	校 名	利用回数(回)	順位	校 名	宿泊延人数(名)
1	東京立大	60	1	東京立大	1,422
2	明治学大	40	2	東京理大	1,338
3	東大	39	3	東京芸大	1,125
4	慶大	32	4	東京学大	895
5	慶大	30	5	東京学大	883
6	早大	29	6	早稲田大	840
7	早大	25	7	早稲田大	721
8	立教大	23	8	早稲田大	715
9	一橋大	20	9	明法大	678
10	東京理大	19	10	明法大	608
10	東京理大	19			

最高利用者神保信一教授には、クリスマス・プレゼントをお送りして友情と感謝を表わしました。
◇ 4・5月は文字どおりフレッシ

学習院大学、日本女子大学のシエイクスピア・ドラマ・ゼミがそれぞれ6月、5月の公演をめざして昨年から数度にわたり熱心な練習を行なった。長期館の屋上からフエンシングの音が聞こえ、講堂から、時には新工なった野外ステージから発声練習が聞こえ、思う存分動きまわっていた彼らの合

ユマンの丘となる。開館九年目を迎えて、キャンパスの木々は大きく成長し、若葉の中から響く若者の声があたりを一層清々しくさせている。新入生オリエンテーション実施校を拾ってみよう。
早稲田大学建築学科
東京都立大学地理学科
上智大学カトリック学生の会
慶応義塾大学新聞研究所
立正女子短期大学英語英文科
都立商科短期大学商学部
桜美林大学経済学部、商学部
都立立川短期大学
白梅学園短期大学保育科I部、II部
東京学芸大学特殊教育学科、理数教育学科
なお6月にも同種のオリエンテーションが予定されている。

4月の交通機関のストライキの余波を受けて、東京医科歯科大学新入生オリエンテーション二〇〇人のキャンセルなど大きな痛手を被った。もっともっと各大学のオリエンテーションに使っていただくことを業務課一同切望している。



30万人達成を祝う

者が多い一日を選んだ関係もありたくさんのお客様を迎え、額に汗を浮かべながらお茶をいただいた。ここ多摩の丘は出合いの丘である。ここで一期一会の茶会を催すのも意味のあることではないだろうか。

5月18日、心配されていたお天気も初夏のような暑さにかわり、木蔭が恋しい一日だった。紅白の幕、赤のもうせん、傘が若葉から深緑になりつつある緑にはえて野点らしい雰囲気をつくった。滞在

宿風景であった。公演のご盛会を祈りたい。
セミナー・ハウスの桜は美しい。富士山麓から移植した御殿場市寄贈の富士桜は今年も可憐な姿を楽しませてくれた。4月6日風の強い日であったが中央庭園でお花見を催した。この日ハウスに滞在した八〇名余りの学生達と若葉の丘に咲く桜をながめながらばらばらついた花見だんごはことさらおいしかった。

宿泊者数三〇万人に達す

開館九周年目の成果

うれしいことに6月15日、セミナー・ハウス開館以来の宿泊者数が三〇万人に到達した。

かえりみれば昭和40年7月5日開館記念の第1回大学共同セミナーが「世界の中の日本」をテーマとして、世人の期待と参加学生一〇三名の大いなる感激のうちに開始されたが、その二泊三日の運営委員長として電灯片手に夜警までされて学生の面倒をみられた永井

道雄先生を仮に宿泊第一号とすれば、それよりおよそ九年目にこの記録はうちたてられたのである。

ちなみに、開館記念セミナー後の一般利用者のトップは東大松田智雄ゼミで、7月10日12時、3時間遅れて都立大根孝一ゼミ。11日東大加藤一郎ゼミ、12日私大連盟、15日慶大高村象平ゼミ……と続いたが、正直なところ余り知られていないその頃に利用された方々に

■宿泊・食料金改定のお知らせ

(昭和49年4月1日実施)

▽食料金

- 朝食 二五〇円(二〇〇円)
- 昼食 四〇〇円(三〇〇円)
- 夕食 五〇〇円(四〇〇円)
- 合計 一、一五〇円(九〇〇円)

▽宿舍・泊料金

- * 会員校は現行どおり据置
- 〈ユニットハウス〉
- * 非会員校

- 学生 八五〇円(八〇〇円)
- 教師一、一〇〇円(一、〇〇〇円)
- 〈長期研修館〉
- * 非会員校

- 学生 九〇〇円(八五〇円)
 - 教師一、一五〇円(一、〇〇〇円)
- ただし、五泊以上の長期利用の場合には改定前の料金

場合は割引料金とし、ユニットハウスと同額とする。

▽施設利用料金(セミナー室等)

- * 会員校は無料
- * 会員校の付属校は七割引き
- * 非会員校
- 〈講堂〉 一三、〇〇〇円
- (一〇、〇〇〇円)
- 〈中央セミナー館〉 六、〇〇〇円
- (五、〇〇〇円)
- 〈中セミナー室〉 五、〇〇〇円
- (四、〇〇〇円)
- 〈小セミナー室〉 四、〇〇〇円
- (三、〇〇〇円)
- 〈教師館セミナー室〉 二、〇〇〇円
- (一、五〇〇円)

は特にありがたかったように思われる。

さて、三〇万人目を迎えたのは東京学芸大学数学科二〇〇名(教職員一名、学生一八九名)の新入生オリエンテーションである。

セミナー・ハウスとしては記念すべき日なので、夕食時にお祝い交歓会を開催した。二〇〇人が席につくと食堂は超満員、ムードは上々である。

三〇万人目は抽籤の結果好漢川崎克君と決り、一番ちがいの前後者は武政加代子、坂本澄子のお二人、場内まさに破れんばかりの拍

第1回日豪関係セミナー

■在日豪州人留学生により実現

豪州では日本に対する一般の関心が近年とみに高まり、日本語を正課にとりあげる小学校もでてきているという。アジア・大平洋地域における新しいパートナーとして日豪両国がますます相互依存を深めつつあるという背景の中で、今回の日豪関係セミナーは行われた。企画、運営したメンバーの内東大のリード、リックスの両君は昨秋当ハウスの主催する第3回国際学生セミナーに参加した際、日豪のセミナーをぜひこの多摩の丘でと思い立ち、またその構想に共鳴したセミナー・ハウスも全面的に協力し実現の運びとなったもの

手、ピアノ演奏「勇士は還える」のなかで発表、紹介された。

続いて指導教授を代表して山本玄道先生のセミナー・ハウスに対する愛情溢るるお言葉と乾杯の音頭により全員ジョッキを掲げての乾杯、そして食事に移った。

夕食後川崎君らにセミナー・ハウスの文鎮等、全員に館の絵葉書が贈呈され、飯田館長の挨拶の後アトラクションに入り、ピアノ演奏、合唱等で楽しく賑やかに三〇万人到達の記念交歓会の幕を閉じた。



豪州のワインとチーズで歓談

○名が参加し、一橋大小島教授、"オーストラリアン"誌東京特派員グレゴリー・クラーク氏等各方面の講演者が招かれ、経済関係の後に続く両国の政治、社会、文化的関係、アジアにおける両国の役割などが熱心に討議された。特に最終日に行われた「変り行くアジアにおける日本、豪州、ニュージーランド」の討論では、アジア人留学生から日本の東南アジアにおける責任等についてするどい批判が見られるなど終始積極的な意見の交換がなされた。

二日目の午後には緑に囲まれた野外集会場に各方面からの招待者を迎えてパーティが開かれ、豪州のワインとチーズも添えられた。ごやかな親善風景が展開された。席上駐日豪州大使からこのセミナーに特に寄せられたメッセージが同大使館文化部長ケントウエル氏によって披露された。大使は今回のセミナーが、在日豪州人留学生によって組織されたこの種の会合としては、おそらく最初のものであると、その先駆的の壮挙を称え、ここに参加する日豪の青年たちが将来の両国関係の担い手となることを信じ、今後同様のセミナーが引き続き開かれることを望むと述べた。

文字どおり献身的に運営に当たった豪州人留学生たちは、自分たちが帰国しても、次に来日する留学生がこの計画を引きついでくれるだろうと語っていた。

利用状況

【4月】

東京都立大学助教 兼子 仁
 明治学院大学助教 鈴木 守
 独協大学助教 宮川 淑
 忠実屋(入社式)
 日本海事検定協会(開発会議)
 東京女子大学助教 白井 常
 川鉄商事
 協和醸造工業
 すみれ幼稚園
 日本航空電子工業
 文化女子大学合唱クラブ
 東洋大学東洋史研究会
 日本女子大学婦人生活問題研究会
 東京学芸大学助教 宮田 登
 東邦大学漢方研究部
 日本女子大学シャンソン研究会
 成蹊大学学生Y.M.C.A.
 武蔵工業大学助教 中岡 二郎
 一橋大学アイゼック・クラブ
 東洋英和女学院短期大学新入生オリエンテーション
 早稲田大学理工学部新入生オリエンテーション
 F.I.A.(英会話研修)
 法政大学助教 土方 保
 伊勢丹労組
 立正大学教授 緑川 敬
 早稲田大学教授 深沢 実
 東洋大学短期大学新入生オリエンテーション
 東京都立大学新入生歓迎ゼミ
 東京大学助手 曾田 忠宏

上智大学カトリック学生の会新入生オリエンテーション 佐藤 進
 日本女子大学教授 田崎醇之助
 早稲田大学助教 中村 幸安
 明治大学助手
 東京工業高等専門学校
 高専教育改善特別委員会
 スリーポンド
 慶応義塾大学講師 中込 昌孝
 国士館大学助教 亀山 潔
 専修大学教授 柘植 敏治
 青山学院大学教授 原 豊
 公立保育研究会
 松本亨英語学校
 大妻女子大学SESクラブ
 専修大学助教 竹林 代嘉
 アーサーアンダーセン会計事務所
 第6回アジア学生セミナー
 婦人国際平和自由連盟日本支部
 慶応義塾大学教授 生田 正輝
 慶応義塾大学教授 植田 仁
 専修大学教授 出牛 正芳
 学習院大シェイクスピア劇研究会
 【5月】
 関東学院大学教授 高島 善哉
 東京大学教授 鈴木 成文
 青山学院大学講師 笹森 健
 玉川大学助教 越後多喜志
 慶応義塾大学教授 千住 鎮雄
 東京大学教授 菅野 暁
 第67回大学共同セミナー
 東京大学哲学研究会 橋口 英俊
 東京家政大学助教 橋口 英俊
 国際ナビゲーター(研究会)
 日本大学教授 大郎 英夫
 国立音楽大学イタリア語研究会
 白梅学園短期大学教授 田中 未来
 創価大学助教 坂手 恭介
 ケーシー(社員研修)
 堀の内キリスト教会
 基督教経済懇談会(修養会)
 東京キリスト伝道館
 立教大学工業所有権法研究会
 東京大学教授 大田 堯
 明治学院大学講師 吉原 功
 螢友会
 キリスト教保育連盟(幼稚園教育
 研修)
 日本大学教授 北野 弘久
 中央大学教授 宮崎 犀一
 東洋大学新入生キャンプ
 立正女子短期大学英文科新入生オリエンテーション
 都立商科短期大学新入生オリエンテーション
 慶応義塾大学教授 村井 実
 明治大学文学部ゼミナル協議会
 東京経済大学講師 山城 章
 芝浦工業大学教授 高橋 清
 明治学院大学教授 大島 貞夫
 法政大学助教 武者 英二
 桜美林大学新入生オリエンテーション
 富士電機製造原子力技術部
 白梅学園短期大学新入生オリエンテーション
 玉川大学教授 彦由 一太
 明治大学教授 内田 章五
 東京学芸大学新入生オリエンテーション
 武蔵工業大学教授 広瀬 謙二
 才能教育研究会野外演奏会
 文京女子短期大学新入生オリエンテーション

4. 5月の利用傾向

区分	4月	5月
職員	33(回)	35(回)
学生会	11	18
大同共学	1	2
社会	1	2
計	7	4
	8	4
	59	65

一橋大学教授 良知 力
 中央大学助教 桑原 哲郎
 法政大学教授 今井 則義
 慶応義塾大学教授 関本 昌秀
 立教大学助教 寺崎 昌男
 東京経済大学教授 富塚文太郎
 早稲田大学講師 石山 修武
 都立工科短期大学新入生オリエンテーション
 日本交通公社労働組合(労働講座)
 核融合理論研究集会
 慶応義塾大学助教 師岡 孝次
 日本女子大学教授 岡本 栄一
 東京学芸大学助教 小池 長之
 東京学芸大学助教 東川 清一
 東京学芸大学助教 長津 一郎
 日豪会議
 第68回大学共同セミナー
 【個人利用】
 白梅学園短期大学教授 田中 未来
 中央大学学生 橋本 能
 京都セミナー・ハウス建設協力委員 田中久仁夫

館長日記から

本号から「専務理事ノート」を「館長日記から」と改題します。別記のように6月14日の理事会の議決を経て、私は館長の任に就くことになりました。従来どおり私から皆様への友信として、たよりを差し上げたいと存じます。

新渡戸稲造博士は「上善如水」という老子の言葉を好んで使われました。争わずして水は流れています。人事は難しいものです。正田理事長や茅元館長のご判断が上善となったのでしょうか。私は水の流れに浴したわけです。

大学セミナー・ハウスにとってなくてはならぬ重要人物のお一人であった佐藤喜一郎氏が八十歳といえ惜しくも逝去されました。東京は勿論のこと大阪でも、しかるべき財界人にお会いすると「佐藤さんは、セミナー・ハウスのこととなるとご熱心ですね」とよくいわれました。

昭和36年7月21日から48年11月28日まで、三井銀行のお部屋にお訪ねしたことが幾十回になりました。うか。時には一時間から二時間も対話をしたのですから、募金でお世話になるよりも、私にとつては、すばらしい人生の教師でありました。片言隻語の中にこの人が豊富な経験から学んだ哲学がありました。ご生前の大使に感謝するため本号で追憶の特集します。千載一遇のご縁と千載不朽のご支援を記し、ご霊前に捧げます。